

7 / 14 (日)

長血の女の癒やし

マルコによる福音書五章21〜34節

イエスのことを聞いて、群衆の中に紛れ込み、後ろからイエスの衣に触れた。「せめて、この方の衣にでも触れれば治していただける」と思ったからである。(27、28)

この女性は十二年間も出血が止まらない病を患っていました。体の痛みだけでなく、人々からは汚れた者と見なされて社会的な交わりを拒否され、孤独の苦しみをも味わっていました。さらに治療費のために全財産を使い果たしていました。深い絶望の中で、彼女は主イエスの噂を聞き、「せめて、この方の衣にでも触れれば治していただける」と考えて、後ろから主の衣に触れました。すると直ちに、彼女の病いは癒されたのです。群衆の誰もが主イエスの衣に触れているような状態の中で、彼女の触り方は全く違っていたことを主イエスは感じ取られました。「主イエスの衣に触れよう」という確かな思いをもって、彼女は手を伸ばしたのです。私たちも主イエスに対する一筋の思いをもって手を伸ばしたいものです。主イエスはそのような切なる思いを拾い上げてくださるお方だからです。